
高校生になったぜ！

ブラッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高校生になっただぜ！

【Nコード】

N8032G

【作者名】

ブラッキー

【あらすじ】

春になり、俺黒田和樹は高校生になったのだが、情けない俺は1週間たっても友達ができない状況だった。そんな時、アイツを見つけた。俺と同じで一人ぼっちだった。これはチャンスと思い声をかけた。ここからがもう波乱の連続だった。初日から先生に怒られ、不良に追いかけれ。だけど、アイツのおかげで学校に行くのが楽しみになった。

（前書き）

はじめての投稿なのでおかしいところがあるかもしれませんが勘弁してください。

4月、それは桜咲く出会いと別れの季節だ。

この俺、黒田^{くろだ} 和樹^{かずき}も中学校に別れをつけ、晴れて高校生になったのだ。

そして、出会ってしまったんだ、アイツと。しかも、いきなり親友宣言されちゃって。

いや、ぶっちゃけて言うと、友達のできない俺にとって嬉しい事なのだが、毎日、毎日問題をもってこられるとなあ。

正直疲れるんだよなあ、でもアイツのおかげで不安だった高校生活は・・・。

「おい！和樹ー！聞してる！？」

「ああ、聞してるからもっと声の音量下げろ、こっちは駅にいるんだから」

正直に言おう、まったく聞いてなかった。というか、携帯を耳に押し当ててる事すら忘れてた。

俺は簡単に謝ってから携帯をきった。通話が終わるとちょうど電車が来た。

いやあ、高校生はいいね、中学と違ってバスや電車、自転車を使っているのだから。

ここからは二十分ぐらいかかるので、暇つぶしに今までの事を思い出してみよう。

今から二週間ぐらい前から、俺の高校生活とアイツとの関係が始まった。

入学式

「前にも来たけどやっぱり大きいな」

今、俺は新品の制服を着て高校の前に立っている。今日から俺も高

校生か。

周りには見たことのないやつらばっかだ。さあ、中に入るか。

前方には紙を配っている先生達がいた、どうやらクラス表らしい。クラス表をもらってと。俺のクラスは…こだな。しかし、本当にあったんだなクラスにアルファベット使ってるところ。中学までは1組とか数字だったもんだったからちよつとびっくりだ。俺はさっそく校舎に入り長い階段を上って1年C組に行った。

「うわぁ」

そこは一人も知り合いのいない未知の世界だった。とりあえず自分の席を確認してすわってみた。

しばらくすると先生が来てすぐに体育館に直行だ。

入学式は何の問題も無く進行していき終了して、俺はすぐに家に帰った。

それにしても高校いっても校長の話長えー。まったく聞いてなかったわ。

こうして高校生活初日は何事も無く終わった。そう・・・何事も無く。

次の日

昨日初めて会ったばかりのはずなのに周りはぺちゃくちゃとおしゃべりしてる。

携帯のアドレスを交換している者もかなりいる。

やっぱ高校生になったんだからみんな携帯持つてるよなー。

ってか、普通に十分休みの時とか使っていいんだ、お兄さん初めて知ったよ。

はぁ・・・結局友達できねえなあ、でもまだ二日目だ！孤立してる人だっているし・・・。

一週間後！

「しくしくしく」

で、できねえ！あれから普通に授業始まったけど、どの教科も最初という事でその教科の説明等ばかりでみんな先生の話そっちのけでおしゃべりばかり。

もはや孤立してるのは俺を抜いて。

「一人しかいねえええ！」

俺と一緒に孤立しているヤツは俺の席の左後ろにいるやつで見た目はおとなしそうな男だ。

確か名前は・・・そうそう、坂崎だ。あいつとなら友達になれるかなあ。

五時限目 美術 美術室にて

俺の隣の席には俺と一緒に友達ができてない坂崎がいた。

「（チャンス到来ー！）」

これ、もう運命じゃね！絶対運命だぞこれ！

この機会を逃したら次は無い！勇気を振り絞って声をかけるんだ！

「あ、あのー俺、黒田和樹これからよろしく」

声に出してみると自分でもびっくりするほど声が小さくて震えていた。汗もダラダラでた。

ど、どうしようちゃんと聞こえたのか？ってか俺緊張しすぎだー！

「く、くくく！」

「へ？」

「あーはっはっは！」

「！？」

なっ、何なんだ！？急に笑い出したぞ！俺そんなにおかしかったか？

「14日の一時半から二時までの間に声をかけられた相手と親友になれば山羊座の方はハッピーに！」

ど、どうしたんだコイツは？しかも言ってる内容って今月のハッピー占いに乗ってたあれか？

何で知ってるかだって？一位だったからだよ！しかも、さそり座はビリだった。

察するに坂崎は山羊座って事だな。・・・ぶっちゃけどうでもいい

ね。

「というわけで君は今日から親友だ！僕は坂崎 東亜よろしく！」
なんだかむこうにとっても俺は運命の相手らしい。やっぱこれって
運命だよな！

「こ、こちらこそ」

と、その時。

「こら！そこうるさい！」先生に怒られた。うわー、最悪だ。美術
はまだ最初の授業なのに。これで先生に悪い印象持たれたら大変だ
ぞ。しかたない、ここは素直にあやま・・・。

「先生！うるさいのは僕じゃなくて隣の人だけです！」

えええええ！？今日から親友だ！とか言ってたくせにいきなりその
親友を売ったぞ！

いやいや落ち着け、美術の先生はけっこう歳とってるから経験豊富
なはず！

つまり、しゃべってたのは俺だけでなく坂崎もしゃべってた事を見
抜くはずさ！

だいたい、隣の人だけってそんなの信じるわけないっしょ。

「黒田！いいかげんにしないと本気で怒るぞ！」

坂崎の言葉信じてるし！しかも、もうキレかけじゃねえかよ！

「くすくす」

笑うなあああああ！誰のせいでこうなったと思ってるんだ！

キンコーンカーンコーン

美術の授業終了！

HR ホームルーム

ホームルーム系は小学校とかでいう学級活動や帰りの会みたいなの
だ。

ちなみに今からやるのはホームルームは帰りの会系だぞ。

「さっきの先生すごかったよねー！」

話かけてきたのは坂崎だ。確かにすごかったのだが大変だったんだぞ俺！

「てか、お前も怒られるよ」

「いやだ」

ソツコウで拒否られた。あなた元凶でしょうが！

「そんな事よりさ」

そんな事！お前のせいでこれからの美術やりにくくなったのに、そんな事ですか！

だが、俺の心の声など聞こえるはずもなく・・・。

「ちよつと助けてくれない？」

助けてほしいのは俺なんですけど。しかも、周り見るともう人いねーし、いつのまにか終わってたんだな。

「しかたねえなー、何すればいいんだ？」

・・・俺は心が広いからな。

「それがね・・・」

坂崎の話によるとこうだ。

なんだか知らない人にシャーペンを持ってかれたとかなんとか。それで取り返してほしいそうだ。

誰だよそんな事すやつは。まあ、とりあえず犯人を探しに教室を出よう。

廊下

「あ、あの人だよ！」

な、なんだって！とうとう見つけてしまったか。坂崎の頼みを受けてしまったので後には引けないが正直に言おう、めっちゃ逃げてええええ！

だって不良じゃん！そんな事するやつ不良じゃん！普通のやつなら返すだろ！

探す事１０分、このまま坂崎が犯人発見できなければいいなーと、

思っていた矢先の事だった。

「へ、へえー見つかったのか、どいつなんだ？」

「ほら、あそこの」

坂崎が指を指す、その先にいたのは・・・綺麗な女子だった。

「よっしゃあ！行ってくるぜ！」

「き、気をつけてね？」

あの女の子誰だ？めっちゃ綺麗じゃん。

この時ちゃんと目をこらしてよく見ておけばこの事態は避けられたかもしれない。

「あのー、すみません」

「なんですか？」

うおおおお！何かドキドキしてきたー！

「今日、シャーペンをちっちゃい男子から借りてませんか？」

ちっちゃい男子ってのは坂崎の事だ。アイツちっちゃいもん。

「いえ、借りてませんけど」

任務終了！借りてないって言ってんだから坂崎の勘違いだろ。

それよりも目の前の女子と仲良くなるために・・・。

「おい、一年！これの事か？」

後ろからのぶとい声が聞こえた。振り返るとヤバそうな三年生がシャーペンを持ってる。

坂崎を見る。口パクでメッセージが飛んでくる。

そのひとだよ

少し前の思考がよみがえってくる。

だって不良じゃん！そんな事すやつ不良じゃん！

予想的中うつうつうつ！

「あ、あの、その」

「シャーペン返せ！チンチクリン頭！」

なに言っちゃってるのこの子ー！？

法垣駅ー、法垣駅です。

電車のドアが開いたところで回想をやめた。

「おい！かーずき！」

階段の所に坂崎がいた、めちやくちや手を振ってる。俺は坂崎の方へかけだした。

さて、今日も頑張りますか！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8032g/>

高校生になったぜ！

2010年11月8日00時00分発行